



辻元清美の永田町航海日記

106



イラストレーション／石坂啓

四月七日午後六時、花冷えする阪急茨木市駅前に多くの人が集まり、私も駆けつけた。兵庫県尼崎市の稲村和美市長（三九歳）と滋賀県大津市の越直美市長（三六歳）、そして今回の茨木市長選挙に立候補した桂むつこ前茨木市会議員（四三歳）が最後の訴えにマイクを握った。

「女三人トリオ」の演説はド迫力。そして二人の若い女性市長とタスキを掛けた桂候補の揃い踏みは、何よりも「政治の風景」が変わった、とみんなに感させたのだ。

稲村さんや桂さんは、近畿の女性議員ネットワークでずっとといっしょに活動してきた。その稲村さんは二〇一〇年に史上最年少女性市長となり、つい先日、嘉田由紀子知事のお膝元の大津市でさらに若い越市長が誕生した。そして宝塚には長年の

「同志」中川智子市長がいる。

こんな私たちの、近畿の「女の闘い」は、橋下徹大阪市長率いる「維新」の動きとは「質」が違う。橋下さんがむき出しの本音をあおつてスッキリさせてくれる「カタルシス願望・トップダウン」型のリーダーなら、私たちは「市民参加・ボトムアップ」型の政治をめざす。

なので、だから、今回の茨木市長選挙でも桂さんに勝つてほしかった。が、結果は惜敗。

茨木市は人口二八万人の町で、私の地元（高槻市・島本町）とは隣同士。今回は四人が立候補した。無所属市民派の桂さん、元自民党で市会議員を二期も務め「茨木維新の会」の支援を受けた六七歳の木本保平候補、医師の吉野宏一候補、新社会党で社民党推薦の山下慶喜候補。民

主・共産は擁立を見送り自主的に桂さんを応援。公明党は自主投票。

結果は、木本候補三万二二六六票、桂候補二万四六九二票、山下候補一万二一六六票、吉野候補七二六〇票。多選で高齢の木本氏より若くて女性の桂さんが有力という前評判だったのに「維新の威力（魔力）」か

という声も出ている。木本新市長は維新の応援で勝てたという趣旨の発言をし、本人も認めている模様だ。

桂・山下の票を足して「反維新的票の方が多かつた」と楽観的な見方をする人もいるが、政治の場では負けは負け。保守陣営は、もう一人出馬予定だったのを土壇場で一本化した。一方リベラル陣営は、桂・山下の一本化ができなかつた。保守派は妥協しても勝ちを取りにいくが、「筋を通す」側は……。

私もきびしい選挙を何回も闘つて

きたが、政治闘争は甘くない。その意味では橋下氏も捨て身で勝負をかけてきている。

「暴走列車に向かつて石を投げるだけではなく、列車の中に乗り込んで『操縦かん』を奪いにいこうとしている」——私たちの闘いをこう評した人がいた。政治に身を置く者の仕事は、批判だけで終わるのではなく、違う政治勢力を具体的に作ることなのだ。

小沢一郎、亀井静香、石原慎太郎、平沼赳氏、河村たかし、橋下徹……。新党だ何だとお騒がせの面々はすべてオトコ。はたして男の政治で世の中は良くなつたのか。そろそろオンナに「操縦かん」をにぎらせろ！ 女の闘いはまだまだ続く。

（つじもと きよみ・衆議院議員）

茨木市長選では惜敗したけど 私たちは「操縦かん」を奪いにいく

